

第5次総合計画 前期基本計画 施策評価シート

施策名	歴史と文化遺産の継承	施策番号	12
主担当部署	部名	部長名	
	教育部歴史文化推進担当	山口 譲	

計 画 (Plan)			
総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1 誰もが明るく暮らせるまち
		基本政策	3 人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり
		施策展開の方向	2 いつまでも学び生きがいを持つまちをつくる
施策展開の方向 (内容)	市民一人ひとりが生涯にわたって、様々な機会や場所で学習し、誰もが気軽にスポーツに取り組める環境を整え、生涯学習や生涯スポーツが活発なまちをつくります。 歴史的建造物の保存修理への支援や貴重な文化財のまちづくりへの活用などにより、歴史的財産や伝統文化を後世に引き継ぐことができるまちをつくります。		
施策内容	歴史的に貴重な建造物の保存修理への支援など、伊勢原の歴史や文化財、生活の様子などを次代に伝え残していく取組を推進するため、文化財調査の実施により伊勢原の文化財の評価、歴史の解明を図るとともに、文化財の魅力をまちづくりに活用し、地域全体で文化・歴史遺産を継承していく仕組みづくりに努めます。		
目標とする状態	豊富な文化財がまちづくりに活用され、様々な人が歴史・文化遺産に興味を抱いています。 多様な情報発信により、歴史的な魅力が多くの人に伝わり、貴重な文化財を大切に引き継いでいます。		
目標の達成度を測る指標	【指標名】	区分	
		【当初値】	【目標値】
	いせはら歴史解説アドバイザー認定者数	70人	100人
	いせはら文化財サイトアクセス数	5,396件	8,000件
施策を構成する「主な事業」	主な事業	事業の概要	
	宝城坊本堂保存修理支援事業	国指定重要文化財である本堂の保存修理を支援し、貴重な文化財の継承を図ります。また、修理事業の機会を利用して、修理現場の公開等を行い、地域にある文化財の価値と保護への理解に努めます。	
	文化財情報発信事業	文化財のホームページなどにより、文化財調査で収集した資料の情報発信を強化し、市民が文化遺産に触れる機会の充実を図るとともに、歴史や文化財を通じた本市の魅力を発信します。	
	文化財公開・活用事業	歴史文化散策コースの設定などにより、文化遺産を体感できる環境づくりを進めるとともに、文化財の保護、啓発活動を展開します。	
	日本遺産認定を生かした地域活性化事業【H28年度から】	国内外に歴史や文化を通じた本市の魅力を発信するため、文化庁が平成27年度に創設した「日本遺産」への認定を目指します。	
	(仮称)郷土資料館整備事業【H28年度から】	市民から寄贈された家屋と敷地を有効活用し、市が所有する文化財資料を市民をはじめ多くの方々に展示・公開する場としての、(仮称)郷土資料館の整備に向けた施設管理を行います。	

施策実施 (D)

指標の達成状況	【指標名】	当初値	目標値	目標の方向	実績・見込(下段:達成率)			
					H25	H26	H27	H29見込
	いせはら歴史解説アドバイザー認定者数	70人	100人	↗	70人 70.0%	70人 70.0%	70人 70.0%	100人 100.0%
いせはら文化財サイトアクセス数	5,396件	8,000件	↗	8,062件 100.8%	8,575件 107.2%	7,559件 94.5%	8,000件 100.0%	

コスト	年度	H25年度 実績額		H26年度 実績額		H27年度 実績額		H28年度 予算額		H29年度 計画額	
	事業費合計(a)	13,544	千円	14,613	千円	13,928	千円	15,538	千円	5,338	千円
	人件費合計(b)	13,860	千円	12,920	千円	10,945	千円	10,945	千円	10,945	千円
	トータルコスト(a)+(b)	27,404	千円	27,533	千円	24,873	千円	26,483	千円	16,283	千円

市民意識	項目		平成27年度		満足度と重要度の相関図				その他の市民ニーズ、意見			
	満足度	施策の値	0.58						A 優先的課題 B ニーズ充足 C 現状維持 D 選択的課題		・名所や歴史にまつわる所を永く保存してほしい。 ・歴史や自然が寄り添うまちであり続けてほしい。 ・伊勢原の歴史に触れることができる事業が必要と感じる。 ・大山や歴史・文化遺産を活かした文化都市となることを望む。	
		平均値	0.32									
	重要度	施策の値	0.93									
平均値		1.20										

■施策を構成する「主な事業」の目標達成状況

NO.	事業番号	事業名	事業指標	当初値	H27年度目標	H27年度実績	目標達成状況	所属名
1	12-101	宝城坊本堂保存修理支援事業	公開事業の参加者数	0人	400人	530人	◎	文化財課
2	12-102	文化財情報発信事業	ホームページの掲載メニュー数	メニュー数9	メニュー数12	メニュー数12	◎	文化財課
3	12-103	文化財公開・活用事業	文化財活用事業参加者数	2,164人	3,000人	3,924人	◎	文化財課
4								
5								
6								
7								

■施策を構成する「主な事業」の平成28年度評価結果(平成27年度事業分)

NO.	事業番号	事業名	進捗状況	実施水準	有効性	効率性	今後の方向性	所属名
1	12-101	宝城坊本堂保存修理支援事業	A	A	A	A	A	文化財課
2	12-102	文化財情報発信事業	A	B	A	A	A	文化財課
3	12-103	文化財公開・活用事業	A	A	A	A	A	文化財課
4								
5								
6								
7								

↓ 評価 (Check) へ

評 価 (Check)

指標(施策の目標)の達成度評価 [選択・記入]	<input type="radio"/> 既に達成している(A) <input checked="" type="radio"/> 順調に進捗している(B) <input type="radio"/> 遅れているが達成する見込み(C) <input type="radio"/> 遅れており達成が見込まれない(D)	B	左記判断理由	いせはら歴史解説アドバイザーの認定を目指し、3年間(H26～H28)の受講に32名が参加されており、目標人数は達成される見込みである。 いせはら文化財サイトのアクセス数は、内容の充実により目標を達成する見込みである。
「目標とする状態」に向けた取組手法の有効性 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 高い(A) <input type="radio"/> 普通(B) <input type="radio"/> 低い(C)	A	取組による成果	いせはら文化財サイトでは、歴史や文化財を通じた伊勢原の魅力発信、掲載情報の生涯学習への活用も考慮した内容充実に努めた。 歴史や文化財に興味・関心を示す方々が増えており、いせはら歴史解説アドバイザーとなることへの関心も高く、3年間(H26～H28)の受講に32名の参加があった。 また、貴重な文化遺産を大切に後世へ引き継ぐ意識の現れとして、市民による歴史や文化にまつわる活発な活動が行われている。
市民意識の反映 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 反映している(A) <input type="radio"/> 概ね反映している(B) <input type="radio"/> 反映できていない(C)	A	左記判断理由	自然豊かで歴史ある故郷を大切にしたいと考えている市民の意向に沿った施策を展開しており、市民意識調査においても満足度は平均より高く、前回調査より上昇している。市民意識は反映していると考えが、重要度が前回調査より上昇しているものの平均より低いいため、引き続き情報発信を図る。
施策を取り巻く環境変化	高齢化が進展する中、知的好奇心が旺盛で、自分の故郷を見つめ直そうとする高齢者が増えている。また、若者や女性の間でも、歴史上の人物や名所を回ることが人気になっており、歴史に対して改めて注目が集まっている中、本市の歴史的魅力を語るストーリー“江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～”が、日本遺産に認定された。(H28.4.25)			
施策推進上の課題	伊勢原の歴史や文化財を次代に伝え残していくためには、行政だけでは限界があることから、文化財にまつわる活動を行う市民団体等の協力が不可欠である。については、そうした団体の継続した活動が行われるよう、行政としての効果的なサポート体制(仕組み)の構築が必要である。			

施策の改善 (Action)へ

施策の方向性 (Action)

今後の方向性の判断	取組の方向性 [選択]	<input type="radio"/> 拡大して実施 <input checked="" type="radio"/> 継続実施 <input type="radio"/> 縮小して実施 <input type="radio"/> 抜本的見直し	左記判断理由	歴史文化遺産の適切な継承とまちづくりへの活用を目的とする「伊勢原市歴史文化基本構想(平成28年1月策定)」を具現化するため、市民が文化財に触れる機会の充実を図るなど、文化財の保護・継承を総合的に推進する。
	施策の方向性 [選択]	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し	左記判断理由	日本遺産への認定が示すように、本市には魅力的な歴史と文化財が存在し、市民共有の財産として大切に後世へ引き継ぎ、本市の歴史と文化が市民の誇りとなるよう、日本遺産への認定を含め、歴史や文化財を生かした魅力あるまちづくりを推進する。